

年少児保育案

はな組 男児10名 女児9名 計19名
担任 梁瀬 加那子 成川 梨恵

1 幼児の実態

子どもたちは、園内の様々な遊具や道具に興味をもち、年中児や年長児が遊ぶ様子を見たり、教師と一緒に自分もやってみたりして、自分の好きな遊びを見付けてのびのびと遊ぶ姿が見られる。友達とのかかわりも楽しむようになり、互いに名前を呼び合い、誘い合って遊んでいる。一方、かかわりが増えてくるといざこざが起こってしまうこともあり、自分の思いをうまく言葉にできずに黙ってしまったり、泣いてしまったりする姿が見られる。教師に互いの気持ちを代弁してもらったり、「貸して」「仲間に入れて」「ちょっと待っててね」などの必要な言葉を教えてもらったりしながら、その場に応じた言葉で自分の気持ちを伝えようとするようになってきた。

園庭では、落ち葉や木の実を見付け、秋の自然に触れて遊ぶ姿が多く見られている。友達と見付けたものを見せ合ったり、集めた落ち葉で「焼き芋だぞ」「落ち葉のプールだ」などとイメージを出し合ったりして楽しんでいる。落ち葉の近くには段ボールの家も登場し、落ち葉や砂場道具を持ち込みながら、友達との特別な空間として遊びを進める姿も見られている。また、教師や友だちと一緒にぶらんこやすべり台、鉄棒、木製アスレチックなどの固定遊具を使った遊びを楽しんでおり、以前よりも上手にできるようになったことを喜び、教師に「見て、見て」とうれしそうに伝えてくる姿が見られる。築山に登ったり、園庭を駆け回ったりして、体を動かして遊ぶ楽しさも十分に味わっている子どもたちである。砂を使った料理づくりも楽しんでおり、自然物も飾り付けに使いながら、つくった料理を並べて、「パーティーを始めますよ」と、友達や教師に声を掛け楽しんでいる。

室内では、新聞紙や空き箱を使った製作を楽しんでおり、遊びに使う剣やベルトなどをつくっている。つくりたいもののイメージを教師に伝え、手伝ってもらいながらつくり、出来上がったものを身に着けて楽しく遊んでいる。また、友達と一緒にままごと道具を並べ、役になりきりながらゆったりとした雰囲気の中でごっこ遊びを楽しむ姿も見られている。

このように、園内全体へと興味・関心を広げ、秋の自然を満喫しながら、自分の好きな遊びを見付け、友達や先生とのかかわりを存分に楽しんでいる子どもたちである。

2 遊びの価値とねらい

子どもたちは、積極的に園内の環境にかかわり、友達と誘い合って自分のしたい遊びを楽しむようになってきている。そこで、友達とのかかわりながらのびのびと遊ぶ中で、互いのイメージを出し合う姿を大切にしたい。

自然物を取り入れながら段ボールの家を組み立てていく遊びは、秋の自然を満喫しながら自分たちだけの特別な空間をつくり出せる遊びである。落ち葉と触れ合いながら様々なイメージを抱くことができるだろう。段ボールの家は、様々な形につくり変えながら「ここは屋根を付けて秘密基地だよ」「これは冷蔵庫ね」など、いろいろなイメージを描くことができる。友達と遊ぶ楽しさをたっぷり味わいながら、互いのイメージを出し合い、共有することでさらに遊びが楽しくなると実感できる遊びとして大切にしたい。

また、製作遊びは、自分のイメージを形にすることができる遊びである。新聞紙や空き箱などの身近な素材を使い、自分のつくりたいものを教師の力も借りながら形にし、出来上がった喜び、それを使って友達と一緒に遊ぶ楽しさを存分に味わうことができる遊びとして大切にしたい。

こうした遊びは、友達と遊ぶ中で互いのイメージが伝わり、重なり、共有できるともっと遊びが面白くなると実感することへとつながっていくだろう。その中で、イメージがうまく伝わらないことでのいざこざも経験しながら、自分とは違う友達の思いなどにも触れる機会も出てくるだろう。

3 この期の保育について

(1) ねらい

- 好きな遊びを見つけて楽しむ中で、友達や先生とのかかわりを楽しむ。
- 身近な自然に触れて楽しく遊んだり、自然物を遊びに使ったりする。

(2) 内容

- いろいろな遊びに興味をもち、同じ遊びが好きな友達とかかわることを楽しむ。
- 家族やテレビ、絵本などの登場人物になってごっこ遊びを楽しむ。
- 遊びの中で先生や友達に自分の思いを伝えようとする。
- 素材や遊具に親しみながら、自分なりのイメージを表現しようとする。
- 友達といろいろなものになったり、歌ったり、踊ったりして楽しむ。
- 身の回りの自然に興味をもち、落ち葉や木の実などを見つけて遊ぶ。
- 身の回りのことや生活に必要なことをできるだけ自分でしようとする。
- 食事に関心をもち、先生や友達と言葉を交わしながら楽しく食事をする。

4 本日の保育について

(1) ねらい

- 好きな遊びを見つけて、友達や先生とかかわりながら自分のイメージを伝えようとする。
- 秋の自然と触れ合って楽しく遊ぶ。

(2) 内容

- 同じ遊びが好きな友達とかかわりながら、自分のイメージや思いを伝えようとする。
- 身近な素材に親しみながら、自分なりのイメージを表現しようとする。
- 木の実や落ち葉など秋の自然に興味をもち、友達や先生と一緒に触れ合って楽しむ。
- 身の回りのことなど自分のことはできるだけ自分でしようとする。

(3) 保育に当たって

ア 人とかかわり

- 一緒に遊んでいる友達に、自分の思いを伝えながら遊びが楽しく展開できるように教師も仲間に入って互いの会話をつなげたり、必要に応じて言葉を補ったりして、楽しい雰囲気をつくるようにする。
- 自分のしたいことやしてほしいことなどを教師に話そうとする姿を認め、自分の思いや感じたことを相手に話し、イメージが重なる楽しさを味わえるようにする。
- 友達とかかわる中で、自分の思いをうまく言葉にできないときは、教師が互いの気持ちを代弁したり、「貸して」「仲間に入れて」「ちょっと待っててね」などの必要な言葉を教えたりする。
- 身の回りの始末や衣服の着脱、道具の片付けなど自分でやろうとする姿を認めながら、必要に応じて手伝ったり、励ます言葉掛けを行ったりする。

イ ものとかかわり

- 園庭の様々な固定遊具に積極的にかかわる姿を認め、「やってみたい」という気持ちを大切にしながら一緒に遊ぶようにする。できるようになったことを教師に見てほしいと伝えてくる姿や自分が楽しんでいることを話す姿を受け止め、子どもたちの喜びに共感する。
- 子どもたちが好きな遊びを楽しむ中で、友達と同じ遊びを楽しめるように砂場遊びの皿やバケツ、スコップなど十分な数を準備しておくようにする。

ウ 自然とかかわり

- 木の実や落ち葉を集めながら秋の自然を感じる姿を大切に、教師も一緒に秋の自然との触れ合いを楽しむようにする。自然物を使って遊ぶ姿も認めていきたい。
- 育てている二十日大根やクロッカスの成長に興味をもつ姿を大切にしながら、これからの成長を楽しみにできるような言葉掛けをする。
- 飼育舎の動物や保育室の生き物に興味をもつ姿を大切にしながら、優しく接することができるように機会をとらえて話をしていく。